

第4章 環境の評価と課題

1 アンケート調査による評価

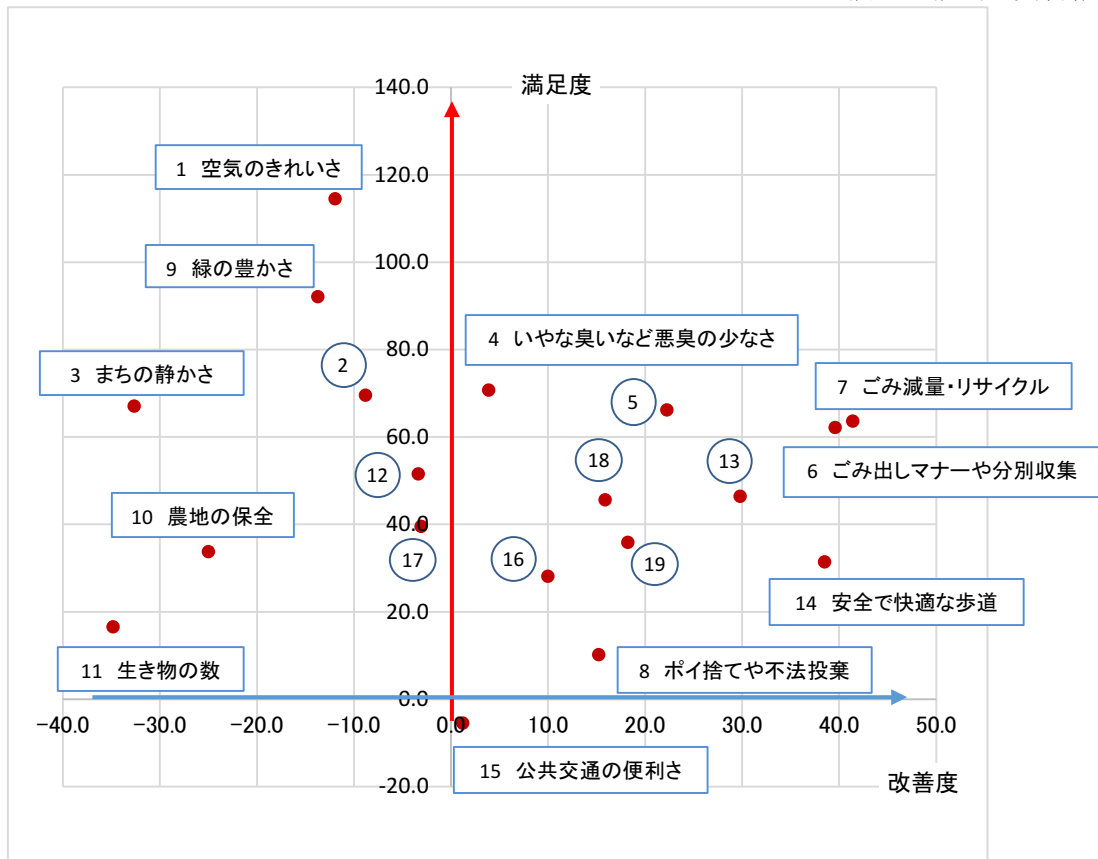
(1) 市民アンケート

本計画の策定にあたり、市民へのアンケートによる意識調査を実施しました。その中で、本市の現在の環境に関する「満足度」と以前と比較した「改善度」を聞きました。この2つの設問の回答を指数化し、相関関係を示したのが下記の図です。

グラフでは、●が縦軸の上にあるほど満足度が高く、横軸の右にあるほど改善度が高い（以前と比べて良くなった）と評価されていることを示しています。

表中の番号と項目は、グラフ中の●の番号に対応しています。

※アンケート調査の概要は資料編に記載



1	空気のきれいさ	11	水辺や野山に生息する生き物の数
2	川や池の水のきれいさ	12	身近な自然とふれあう場所や機会
3	まちの静かさ	13	身近な公園や広場の使いやすさ
4	いやな臭いなど悪臭の少なさ	14	安全で快適な歩道
5	水の循環利用や節水の推進	15	バスなどの公共交通の便利さ
6	ごみ出しなどのマナーや分別収集	16	史跡や文化財の保護
7	ごみの減量やリサイクルの推進	17	地域の祭りなど伝統・文化の継承
8	ポイ捨てや不法投棄の状況	18	まち並みの景観、美しさ
9	山や森の緑の豊かさ	19	学校や地域での環境学習
10	田畑など農地の保全	—	

※満足度の評価: 満足(+2)点、やや満足(+1)点、どちらとも言えない(0)点、やや不満(-1)点、不満(-2)点とした回答比率
 ※改善度の評価: 以前の方がよかった(-1)点、変わらない(0)点、今の方が良くなった(+1)点とした回答比率

「空気のきれいさ」「山や森の緑の豊かさ」は、改善度（横軸）がマイナスではあるものの、満足度（縦軸）は高く評価されています。前回（平成18（2006）年東温市環境基本計画策定時）の調査結果と同様であり、これらは変わりなく満足度の高さを維持しています。

「ごみの減量やりサイクルの推進」と「ごみ出しなどのマナーや分別収集」は、改善度が高く評価されています。前回調査でも同様の結果となっていました。

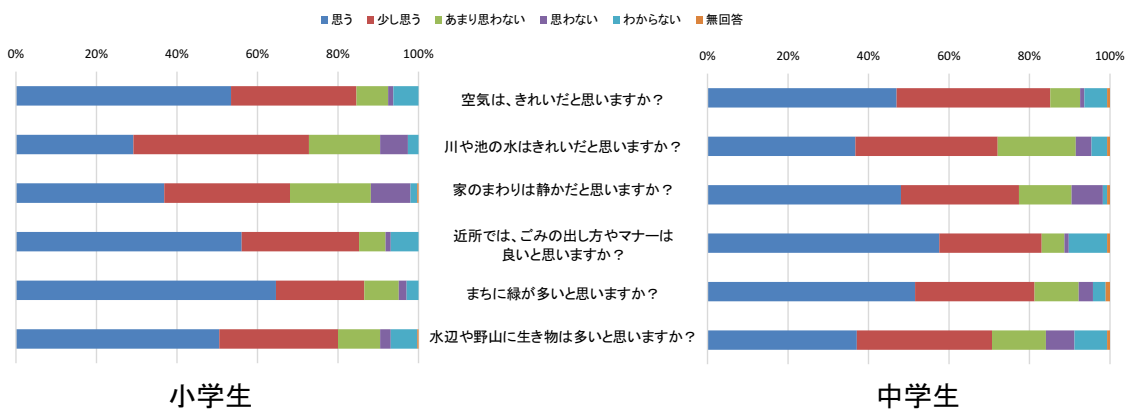
「バスなどの公共交通の便利さ」は、唯一満足度がマイナス評価となっています。改善度では、以前と変わらないと評価する中央（0.0）の位置にあります。前回調査では、満足度で中位程度、改善度では上位にありました。

「水辺や野山に生息する生き物」の自然環境に関しては、前回調査と同様に厳しい評価となっており、自然環境の保全是継続した課題と認識されています。また、満足度の低い「ポイ捨てや不法投棄の状況」、満足度、改善度ともに低い「農地保全の対策」などが課題として認識されていることがうかがわれます。

（2）小・中学生アンケート

小・中学生にも、本市の環境についてどう思っているかを聞きました。

小学生、中学生ともに同様の傾向がうかがえます。「川や池の水のきれいさ」「家のまわりの静かさ」「生き物の多さ」については、相対的に評価が低くなっています。



市民アンケートと比較して「川や水のきれいさ」の満足度が低くなっています。自由意見にも「川や水をきれいに」との記述があり、ポイ捨てなどによる河川環境も含まれますが、水に対しては厳しい評価となっています。

気になっている環境問題として「道路などにごみのポイ捨てが多い」が最も多い回答となっています。市民同様に意識が高い課題となっています。

「静かさ」については、別の設問の回答や記述回答に「バイクの音がうるさい」という意見が多かったのが特徴的です。

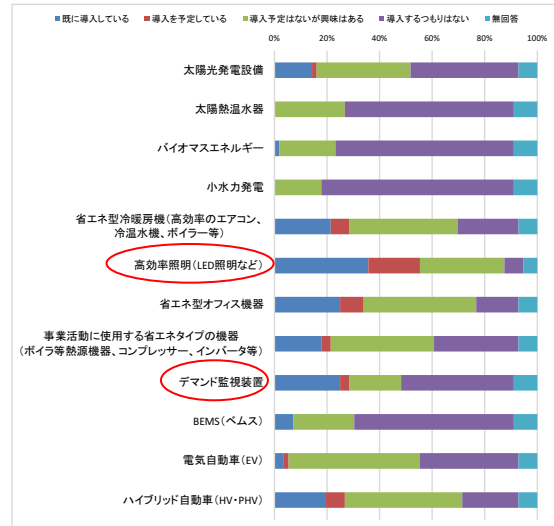
(3) 事業者アンケート

調査対象には、温室効果ガスの排出抑制や省エネルギーなどの取り組みを進めている企業や事業所が多かったことから、全体的に環境やエネルギーに対する意識が高く、取り組みの実施度も比較的高い結果となっています。

設備や機器の利用状況の設問では、現在、国等の導入補助制度がある「高効率照明（LED照明など）」は、33%が導入済みで、さらに20%程度の事業者が導入を予定している状況です。

「デマンド監視装置※」も25%が導入していると回答しています。本市は、県内でもデマンド監視装置の導入率が高いことがアンケートの結果に表れています。

このことから積極的に取り組みを進めていることがうかがえますが、「行政からの支援に関する情報」について、「あまり得ているとは言えない」と「ほとんど得られていない」の回答が70%程度あることから、効果的な情報発信の方法についての検討が必要と思われます。



※デマンド監視装置:24時間連続して最大需要電力(デマンド値)を計測し、目標値超過前に警報を発信する。負荷設備を停止することで最大需要電力を抑制し、契約電力を下げるができる。

市の取り組みに対する要望では、「税制上の優遇措置、補助金の交付、低金利融資など」が61%、「環境にやさしい具体的な行動の事例を、事業者に紹介する」が55%と、この2項目に回答が集まっていました。支援情報と合わせて、具体的な取り組み事例などの情報が求められています。

(4) 第2次東温市総合計画策定にあたってのアンケート調査

第2次東温市総合計画策定にあたってのアンケート調査においても、本市に住み続けたい理由のトップに「自然や空気などの環境が良い」(68.5%)があがっています。住み続けたい環境をいつまでも守り、より良い環境を創造していくことが大きな課題です。

本市の環境施策の総合的推進に対する満足度について、「ある程度満足」と「満足」を合わせた回答率は50.8%と半数を超えており、市民の関心の高さとともに、これまでの取り組みが評価されていることがうかがえます。今後の重要度では70.9%が「重要」「やや重要」と回答しています。

一方で、満足度では「どちらともいえない」とする回答が32.9%あります。今後も、多様な媒体を活用した取り組みの啓発や情報発信を継続することにより、市民の意識と関心をさらに高めていくことが求められます。



2 現況と課題

本市の環境の現況とアンケート調査から、現況の評価と課題等についてまとめます。

環境分野		評価、問題点、課題等
環境教育・環境学習、環境保全活動	環境教育 環境学習	<ul style="list-style-type: none"> 本市の環境教育・環境学習は、先進的な取り組みを進めており、「乳幼児から始める環境教育」「とうおん子ども科学&環境会議」のほか、地域が一体となった取り組みを体系的に推進しています。 アンケート調査での「学校や地域での環境学習」の評価は、満足度、改善度ともに中位よりやや低い程度となっています。 市民の環境教育や環境学習に対する要望は、「子どもたちへの環境教育」(72.9%)には要望が高いものの、「市民への環境学習の機会の充実」(11.1%)に関しては低い状況です。 子どもたちへの環境教育を維持、発展させるとともに、市民参加の環境学習の機会の充実と参加促進を図っていくことが必要となっています。
	環境保全 活動	<ul style="list-style-type: none"> 市民の主体的な取り組みへの支援も充実しています。 市民は、「美化活動」や「自然観察会」への参加意向が高い状況です。 地域の「美化活動」への参加や「自然観察会」など、市民が参加しやすい活動機会の充実とともに、市民への啓発を継続して進めて行くことが必要です。
地球環境	地球温暖化対策	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー消費量の変化について、市民、事業者ともに「減っている」とする回答が「増えている」を2倍以上の割合で上回っています。 事業者においては、省エネルギーを意識した事業活動の結果が、エネルギー消費量の削減につながっていることがうかがえる結果となっています。 省エネルギー機器や再生可能エネルギー利用設備の導入意向は、「燃料電池」「蓄電池」「電気自動車」について、「既に利用している」を上回っており、今後の普及拡大が期待されます。 設備や機器の導入支援や具体的な取り組み事例の情報提供などの充実により、温室効果ガス削減の取り組みの一層の推進が期待されます。

環境分野	評価、問題点、課題等
生活環境	<p>大気</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気の状態は、概ね良好です。なお、光化学オキシダント及び微小粒子状物質（PM2.5）については、隣接市にある測定局で環境基準の超過が見られます。これらについては、国外から飛来する汚染物質の影響も考えられます。 アンケート調査では「空気のきれいさ」は最も満足度が高い項目です。 自由意見の「野焼き」に対する意見には、違法なごみの野焼きと収穫が終わった後などの農業残さの焼却に対するものがあります。 ごみを燃やす違法な野焼きの防止とともに、農業と住宅地住民の良好な関係づくりも課題となっています。
	<p>水</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の河川は、環境基準 AA 類型の環境基準を満足しており、良好な水質を維持しています。 アンケート調査でも「川や池の水のきれいさ」は、以前と大きく変わることなく、高い満足度を維持しています。 河川の環境については、市民と小中学生の多くが「ごみの投棄」や「汚れている」などの意見を寄せています。 水質保全対策とともに、河川環境の美化や景観の維持・向上が求められています。
	<p>騒音</p> <ul style="list-style-type: none"> 騒音測定では、環境基準の超過が見られます。 アンケート調査において、「まちの静かさ」については「満足ではあるが以前と比較すると悪くなっている」と評価されています。 小中学生では、「バイクの音がうるさい」との意見が多く寄せられており、「勉強に集中できない」との回答も見られます。 継続した騒音対策が求められます。
	<p>廃棄物</p> <ul style="list-style-type: none"> ごみの排出量は減少傾向にあります。リサイクル率は、全国平均を下回っています。 アンケート調査では、「ごみの減量やリサイクル」「ごみ出しのマナーや分別収集」の満足度、改善度が高く評価されています。 一方、ごみの分別収集について、「ごみ袋への記名」や「収集方法」に対する意見や苦情が見られます。 3Rの推進とともに、収集方法の改善や啓発などにより、市民の意識と理解を高めていくことが必要です。
	<p>マナー・モラル</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ポイ捨てや不法投棄の防止」「ペットの飼育マナーの向上」が継続した課題です。 特に小学生の意見に「ポイ捨てをやめてほしい」「川にごみを捨てないで」などが多く見られます。 地域の環境を守り、将来に引き継いでいくためにも、大人のマナーとモラルの向上が大きな課題となっています。



環境分野		評価、問題点、課題等
自然環境	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 本市は、三方を山間部に囲まれ、近年失われつつある水と緑の美しい自然を維持しています。 アンケート調査では、将来の本市のイメージについて、「自然を大切に」「緑豊かなまち」など、「自然」と「緑」をキーワードとする回答が最も多く寄せられています。 市に対する環境施策の要望が最も多いのが「野山や森林などの自然環境の保全」です。 大切にしたい場所には、「白猪の滝」「重信川」「風穴」「皿ヶ嶺」「泉」などがあがっています。 貴重な自然を大切にしていくことは、本市の大きな継続課題です。
	生物多様性	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査では、市に対する環境施策の要望の3番目に「外来生物対策、有害鳥獣対策」があがっています。 小中学生の回答には「生き物が少なくなってきた」との記述が見られます。 動植物とより良いかたちで共生していく環境づくりが必要です。
快適環境	景観	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査では、景観として、上記の皿ヶ嶺などのほか「石鎚山の見える風景」「東温アルプス」「米や麦の田園風景」「桜並木」「菜の花畑」などの回答が見られます。 自然環境とクロスしますが、「今のまま」の豊かな自然や田園風景とまち並み、人々の暮らしが共存する環境を大切に守りたいという市民の意識が感じられます。 田園風景、農地の保全については、高齢化などによる耕作放棄地の増加や里山の管理、空き家の増加などの問題があります。 地域と一体となった景観の維持、さらにより良い景観づくりが求められます。
	美化・緑化	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査では、市に対する環境施策の要望の2番目に「河川・道路や公園の清掃・美化」があがっています。 市民アンケートには、道路、公園、河川堤防などの雑草や木々の整備に対する意見が見られます。 ポイ捨て、河川のごみや汚れに関する意見は、前記の通りです。 「もっと緑を増やしてほしい」という意見は、小中学生に多く見られます。 市民参加の美化活動の推進とともに、地域の美化に対する市民の意識高揚が求められます。